

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	・ 日常に必要な国語（漢字・語彙）について正確に理解し、適切に使う能力 ・ 目的に応じて、文章や図表などを結び付けて必要な情報を見付け、自他の思考を適切に表現したり理解したりする力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 71% ・ 既習の漢字を書く設問での正答率が低く、既習漢字を正しく使うことに苦手がある。 ・ 文章や図表をもとに記述する設問は24%が無回答。資料を適切に読み取ったり、そこから自分の考えを形成したりすることに苦手がある。	・ 既習漢字や教材文中の語句を用いた言葉集めや、短文を書くことを授業や朝学習などの短時間でくり返し練習する。 ・ 図書室の活用、辞書の活用、教科書巻末「言葉の宝箱」の活用を通して、様々な語彙に触れる機会をつくる。 ・ 単元や授業のめあてを児童に言語化させたり、振り返りを書く際に視点を与えたりして児童が考えを形成する機会を十分にとる。 ・ 日常的に日記や短作文などを書いたり伝えたりする活動を行い、自分の考えを形成する経験を積ませる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	・ 様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能 ・ 社会の課題解決に向けて、社会へのかかわり方を選択判断したり、適切に表現したりする力 ・ よりよい社会を考え問題解決しようとする態度、地域社会、国際社会の一員としての自覚	・ 資料が何を示しているのが把握できなかつたり、その要点を見落とししたりすることがある。 ・ 社会的な事象に対し、自分事として捉えて疑問をもったり意欲的に調べたりする力が乏しい。 ・ 資料と社会的な事象や地域の生活を結び付けて考えたり、課題を見いだしたりすることに至らない児童が多い。 ・ 学習をもとに考えたことを表現する場面では、意欲的ではある。しかし、文章で記述したり、説明したり、話し合ったりすることの経験が足りていない。 ・ 47都道府県の名称と位置の理解について習熟が課題。	・ 日頃の授業内において、教科書等の資料を取り扱う時間を確保し、見方や考え方を養う。 ・ 都道府県の位置や名称が分かる掲示物を活用し、児童の目に留まりやすくする。授業内でも適宜掲示物を活用しながら、正しい位置と名称を振り返る機会を継続して設ける。 ・ ペアやグループでの話し合いを取り入れ、友達の考えを聞きながら自分の考えをもつことができるようにする。 ・ 授業の単元計画において、社会的な事象と自分の生活を関連づけて考える場面を意識的に作り、自分の考えをもち表現することを積み重ねる。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	・ 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解、日常の事象を数理的に処理する技能 ・ 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 70.0% ・ 記述式の設問の正答率が低く、回答に至るまでの過程の根拠を説明することが苦手である。 ・ 適切なグラフや図を選ぶ設問の正答率が低く、正確にグラフや図を読みとることや、文章から得た情報を基に図やグラフにする	・ 答えを求めるだけではなく、式の説明ができるように、立式の根拠を大切にさせる。そのために、図や数直線を用いて立式の根拠を説明する活動を重視する。 ・ 問題を解決する過程で、見通しをもち筋道を立てて考えて説明したり、既習事項を活用する手順を的確に説明したりする学習を重視する。その中

令和7年度 授業改善推進プラン

	などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力	ことが苦手である。	で、友達の説明のよさを見付けて自身の説明を振り返ることにつなげさせる。また、根拠を明らかにし筋道立てて説明している表現を全体で共有し、価値付ける。
--	---	-----------	---

理 科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・理科の見方・考え方を働かせた問題解決の力を育てる。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 61.0% 【予想】 ・事象や経験を予想の根拠として結び付けて考えることが難しい。 【計画】 ・仮説を検証するための実験計画を自力で立てることに苦労している。 【考察】 ・実験の結果を公平・客観的に評価できず、仮説に正対した考察をすることに課題がある。 ・また、全国学力・学習状況調査の結果から、選択式の問題や文章の記述式の問題については、全国平均よりも正答率が高いことが分かった。一方で、語句や短い言葉を答える問題については全国平均よりも正答率が低いという結果が出た。	【予想】 ・児童同士の考えを積極的に交流させ、どのように根拠をもてばよいのか皆で共有し、考えを深めさせる。その際、付箋紙や名前マグネット、ICT機器を用いて自分や友達の考えを視覚化させる。 【計画】 ・実験や観察の計画を立てるにあたり、ノートにまとめることを指導する。(必要な実験器具、手順、そろえる条件、見通し) 【考察】 ・実験の後、考察を記入する前に実験の結果(数値等の事実)をどのように評価するのか、クラス内で整理・検討を行う。 ・思考する力を育てるだけでなく、基本的な語句や事象のきまりについてを単元の終末におさえることによって、さらなる知識の定着を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
生 活	・自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関わりに気づき、生活上必要な習慣や技能。 ・身近な人々や社会、自然を自分との関わりで捉え、体験活動等を通して、自分自身や自分の生活について	・生活科の活動は、遊び的要素が多く含まれる学習のため、子供の学びにどう繋げるのか明確にする必要がある。 ・自分の気づきを交流し、新たな気づきを生み出したり、次の活動に繋げたりする力が乏しい。 ・活動を通して、考えたことを表現	・導入や活動の場を工夫し、児童の思いや願いに沿った学習計画を立てる。 ・体験活動を充実させるとともに、活動から得た気づきをもとに考える時間を設け、学習活動が体験のみで終わらないようにする。 ・学習対象と繰り返し関わりをもた

令和7年度 授業改善推進プラン

	て考えたり、表現したりする力。	する際、どのようなことを書けばいいのか困る児童がいる。 ・自然事象に接する機会が少ない。	せ、活動に対して振り返りを確実に 行い、次の学びに繋げていく。また、 子供の活動を丁寧に観察し、行動観 察やつぶやき、対話から子供の気付 きを見取り、授業展開に生かす。 ・観察する視点を焦点化し、変化に気 付きやすくする。 ・中庭のビオトープや、芝公園を活用 し、自然に触れ合う機会を作る。
--	-----------------	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽と豊かにかかわることができる力。他者と協働しながら表現したり、音楽の良さを見出したりする力。	・表現では他者と協働して学習活動を進めることに課題がある。 ・鑑賞では感じたことを適切な言葉を使って表現することに課題がある。また、感じ取ったことと聴き取ったことの関連を図って鑑賞することに課題がある。	・児童の実態に合わせ課題を選んで練習したり、個別指導をしたりして、一人一人が自分の思いをもったうえで協働して音楽を表現できるようにする。 ・感じ取ったことをどのように言葉で表現するか、ヒントの言葉を掲示する。また聴き取ったことと感じ取ったことの関連を図ることができるような発問・追発問を繰り返すことで、音楽の聴き方に気付けるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
図工	・対象を造形的に捉える力を育て、材料や用具を工夫して創造的に表現する力。 ・作品のよさや美しさ、表現方法について考え感じ方を深める。 ・つくる喜びを味わいながら感性を育み、豊かな生活を創造しようとする態度。	・児童は表現活動に意欲的だが、鑑賞では友達の作品のよさに気づく力が弱く、他者の視点を受け入れる態度に課題がある。 ・表現活動と片付けに時間がかかってしまい、鑑賞や振り返りの時間が短くなってしまうのが課題である。	・鑑賞する態度を育てるために、作品交流の時間を設け、ICT を効果的に活用し、児童同士でよさを伝え合う活動を取り入れる。 ・授業での制作の見通しを持たせることで時間管理を促し、片付けを含めた活動全体の流れを意識させる。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・日常生活に必要な知識・技能を身に付ける。 ・生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	・現在の生活が「自分にとって不便でなければそれでよい」と捉えており、生活の中にある工夫や支えに気付く視点が乏しい。 ・環境への配慮や他者の視点に立って考える力、客観的に生活を見つめる力が十分に育っていない。	・生活の工夫の必要性を実感できるように、実態に合わせた課題を設定する。 ・ロールプレイや疑似体験を通じて他者の視点や生活を支える工夫を実感させる。 ・学習のまとめとして「自分の生活をどう変えたいか」「誰のために何ができるか」を考える振り返りを行う。 ・ICT 機器の活用やワークシートを工夫によって考えを視覚化し、仲間と共有できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・体を動かすことの楽しさや心地よさを感じる力 ・基本的な動き（走る・跳ぶ・投げる等）の習得 ・自ら体を動かす活動を選択、継続する力	・基本的な運動技能の習得に差がみられる。全体指導だけでは不十分。個別支援が必要。 ・児童が「どのようにできればいいのか」「どこを頑張ればよいのか迷う」など努力の方向性が定まらない。 ・児童が主体的に健康についての課題を考えることが必要。	・達成感を得やすい活動の設定をする。 ・自己選択場面を取り入れた活動計画を取り入れる。 ・ICT を使い、振り返りや動画での見本を提示する。 ・自分自身の健康に ICT を活用して情報を整理したり、話し合いを通して自分自身の生活を見直したりして実生活に活用できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・卒業までに、アルファベットの大文字小文字が書けて読めるようになる。 ・卒業までに、音声で十分に慣れ親しんだ単語や文章などを活用してやり取りができるようになる。	・自分が表現したいことを文章にする際、どのようなことを書けばよいのか困る児童がいる。 ・ペアとのやり取りの中で声の抑揚やジェスチャーを付けながら、よりよい表現活動にしようとする意欲が乏しい。 ・音声で慣れ親しんだ単語や文章を4線に正しく書くことが難しい。	・表現の幅が広がるよう、メトロレーニングを活用し、音声に慣れ親しませるとともに、語彙を増やす。 ・日頃の授業の中で、よりよい表現活動ができているペアを全体で取り上げ、手本となるやり取りを共有する。 ・高学年で4線を使って正しく単語や文章が書けるようになるために、低学年では、音声と文字に親しんだり識別したりする活動を多く取り入れ、中学年では、ワークブックを使い、4線に正しくアルファベットの大文字・小文字を書けるよう段階的に指導していく。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・道徳的諸価値について理解する。 ・物事を多面的・多角的に考える。 ・道徳的価値を基に、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める。	・教材の内容を児童が自分事として捉えられるようにする必要がある。 ・自分とは異なる考えを受け入れるのが難しい場面がある。 ・学習したことを生活の中で実践できるようにしていく必要がある。	・役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れることで、教材の内容を自分事として捉え、道徳的諸価値の理解を深めることができるようにする。 ・葛藤場面を設定し、自分の考えをペアやグループ、全体で話し合う活動を積極的に取り入れることで、多様な感じ方や考え方に触れさせる。 ・学習を通して、自分の生活について振り返る時間を確保する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・集団の一員としてのより良い生活や人間関係を主体的に築こうとする。 ・自己の生き方についての考えを深め、自己を活かそうとする。	・挨拶や時間を守る等の日常生活の中で必要なマナーやルールを主体的に守り、実行しようとする意識を身に付けて行く必要がある。 ・高学年については下級生を大切に、より良い関係を築こうとする態度が育ってきている。集団の一員として、志をもって自己を生かそうとする気持ちを育てる必要がある。	・挨拶運動やふれあい月間を活用し、マナーやルールについての意識や態度を向上させる。 ・様々な行事を通して、上級生の姿を見せながらどのような自分になりたいか考えさせると共に、キャリアパスポートを活用しアウトプットさせることでその気持ちをより強めることができるようにする。 - また 1～4 年生の遠足を通して、中学年にも主体的に行事に関わる意識を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・生活している地域に関わる探求的な学習の過程で、自ら問いを見つけ取り組む。 ・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用して収集した情報を整理・分析・思考し、自分の考えをまとめ、判断し表現しようとする。 ・探求的な学習に取り組む事で、学んだことを主体的に生活に生かそうとする。	・課題に関して、自分ならどうするか、どのように探究していくか学習をプランニングする力を育てる必要がある。 ・情報を読み取り、分析したり判断したりする力を高める必要がある。 ・自分で考えたことを分かりやすくアウトプットする技術の習得が必要である。 ・課題に関して自分事として捉え、どう関わっていくのか考えられるようにする必要がある。	・日常生活や既習事項、体験活動などを通して課題意識をもち、自らの学びを計画、調整する。 ・学習内容や目的に合わせて、必要な情報を収集し、情報や考えを整理したり、分析や思考をしたりして課題を解決しそのことをまとめ、表現できるようにする。 ・自分の住む地域や伝統文化について学ぶ学習を積極的に取り入れ、地域の特徴や良さに気付き、継承していくことの大切さに気付かせるようにする。 ・キャリア教育とも関連させ、学んだことを今後どのように自分の生活に生かしていくのか、考え表現する時間を設ける。